

大都市のホテル不足

訪日客増、供給追いつかず

きょうの「ことば」

大都市を中心にホテルは「ほぼ満室」

(シティーホテルの客室稼働率が80%以上の都府県、昨年、観光庁)



▽：訪日外国人客数が2015年に前年比47%増の1973万人に急増して過去最高を更新するなかで、東京や大阪などの大都市でホテル不足が鮮明となっている。アジアを中心とする訪日客は大都市での買い物需要が多く、宿泊需要も大都市に集中しているためだ。

▽：観光庁の調査によると、シティーホテルの昨年の客室稼働率は11都府県で「ほぼ満室」を示す80%以上を記録した。一方でホテル供給は増えるものの、訪日客の需要増加を吸収するほどの規模ではない。みずほ総合研究所の試算によると、東京都の宿泊施設の客室数は東京夏季五輪がある20年までにホテルで約1万室追加供給されるが約4000室足りない。

▽：「ホテル業界は08年9月のリーマン・ショックで設備投資が重荷になった経験があり、追加投資に慎重姿勢（観光庁幹部）との指摘がある。このため観光立国をめざす政府は、大都市で民泊の有効活用による宿泊施設の確保をめざす。ホテルに比べ稼働率が低い郊外の旅館利用や、地方への訪日客誘客も促して大都市部のホテル不足を解消したい考えだ。」